

特集 1日も早い4車線化の実現を目指して

大村～諫早間の早期整備を目指すシンポジウム～県央都市間のみちづくり～

10月27日(日)、さくらホールで「大村～諫早間の早期整備を目指すシンポジウム」を開催しました。

会場には500人を超える来場があり、地元の切実な思いを発信しました。また、国会開催中にもかかわらず、

谷川弥一衆議院議員、金子原二郎参議院議員、加藤寛治衆議院議員、古賀友一郎参議院議員、

さらに、長崎県知事、大村・諫早両市選出の県議会議員の皆さまにご出席いただきました。



基調講演

「国道34号大村～諫早間の現況と課題」

「安全・安心の視点も踏まえて」

地域一体となった取り組みと情報提供を

与崎から本野までの区間は、2車線で中央分離帯は無く、歩道の未整備区間もある道路です。

大村～諫早間の1日の交通流動3万2千台のうち、「大村～諫早」間の交通量が57%、「大村～長崎」間の交通量が18%。併せてこの区間の全交通量の75%を占めます。また、この区間の移動目的は、通勤・通学が60%を占めています。大村市から諫早市については流出が流入の1.4倍、大村市から長崎市については流出が流入の1.9倍となっており、いずれも流出が多い結果となっています。これは、大村市が諫早市や長崎市の住宅機能都市であることを示しています。

大村市南部にある長崎医療センターは、県央地区の第3次医療施設で救急搬送の件数は増加傾向にありますが、大村～諫早間は2車線で追い越しができません。つまり、渋滞時には搬送にかかるなどの重大な課題があるのです。

大村～諫早間の交通の現状は、通勤、商用などの小型車の通行が多く、交通量は5年間で12%増加しています。この間の混雑度は高く、昼間のうち混雑する時間帯は約50%に達し、慢性的に混雑状態で深刻な状況です。国道34号に収容しきれない車両は、並行する県道大村貝津線に分散し、この道路も慢性的に混雑状態にあります。

また、与崎から両市の境界までの交通事故発生件数は、県内国道の平均の8.4倍です。事故の観点からも深刻な状況を示しています。



—— 高橋 和雄 氏
長崎大学名誉教授
工学博士

このような状況を踏まえ、国道34号大村～諫早間の4車線の整備を実現するためには、市民、団体、自治体が一体となった取り組みと、渋滞、事故、災害時の状況などの継続的な道路管理者からの情報提供が必要であると考えるています。



パネル

デイスカッション

観光、商業、行政などの分野で長年培ってこられた豊かなご経験と高い見識をお持ちの皆さまから、国道34号大村～諫早間の早期整備に向けた「課題・連携・実現」についてご意見をいただきました。

【コーディネーター・菊森淳文氏】

ながさき地域政策研究所所長

ここでは大きく3つの論点について、それぞれ、重要性・必要性などをお伺いします。まず、地域が抱える問題についてお願います。

与崎交差点～本野交差点間の沿線地域が抱える課題

【山口氏】

高速道路が整備され非常に便利になり、観光客などは増えています。その反面、国道筋のお店は素通りされている状況です。県下最大の農産物の生産地である島原半島からは、畜産物の輸送に国道34号を利用していています。特に夏場の輸送は、鈴田峠の渋滞で家畜にストレスを与え、最悪の場合は死亡するケースもあり二次産業に従事する者としても大変危惧しています。



【近藤氏】

諫早北部の住民は、空港だけでなく高速道路を利用するために大村を通る人もいるため、交通量は減りません。諫早・大村には多くの工業がありますが、製品を空輸する際は国道34号を利用して空港まで運ばなくてはなりません。また、国道34号の混雑を避け、早急に長崎医療センターに搬送するため、木場にスマートインターチェンジができる予定もあるようですので、産業、防災、医療について非常に重要な路線だと考えます。



光 璋 氏
近藤 光璋氏
諫早市都市計画道路網
検討委員会元委員

【菊森氏】

国道の混雑が、家畜の輸送や空港への物流、防災、医療の観点にまで影響を与え、今後の新しい観光振興に大きなネックとなる課題、問題点だという指摘をいただきました。次に両市でどのように連携していくべきかをお伺いします。

大村・諫早の連携について

【山口氏】

観光振興で最も重要なのは、「食」です。観光客にお伺いすると、ほとんどの場合、女性が行き先を決

めると言われます。両市は特産品

開発でも、他市を大きくリードする地域になってきています。地域の特性を生かし、それぞれの魅力を合わせて、1年中楽しめる県央地域のツアーなどの観光ルートを、連携して作ってみてはいかがでしょうか。



それぞれの魅力を合わせた観光ルートを

山口 成美氏
シュシュ代表取締役

【内田氏】

諫早には、諫早の観光コースを考える「諫早もりあげガールズ」という女性9人のグループがあり、何でもないところを女性目線で観光として掘り起こしています。大村でもできるのではないのでしょうか。県央の観光、県央から島原へ、県央地域で繋がりを持った回遊型の観光が今後重要になってくると思います。



繋がりを大切に回遊型の観光を

内田 輝美氏
諫早市タクシー協会会長

【菊森氏】

市民の意識づくり、特に女性の目線はこれから観光や地域振興を考える上でも、非常に大切になってい

くことを感じました。

3つ目のテーマは4車線化が早期実現すると、こんなことができるのではないかと、このことを、一言ずつお願いします。

早期整備を

実現させるためには

【山口氏】

諫早市の新しい体育館とシーハットおおむらが連携すれば、全国規模のスポーツ大会を充実できるのではないのでしょうか。選手はもちろん、応援団も来ていただくことで飲食関係の幅広い経済活動、タクシー協会なども潤うことと思います。全国から多くの皆さんがいらつしやる日も、夢ではないと思います。

【松本市長】

生活道路としても非常に重要な国道34号ですが、おかげさまで市内3.7kmのうち、ほぼ9割の整備が済みました。しかし、これらが問題です。諫早・大村間の日常的な渋滞で、両市民は困っています。私たちの子どもや孫の代まで考えると、この区間の拡幅事業は1日も早く整備されなければならぬ重要な問題です。大村と諫早は隣の市でありながら、近くて遠い。国道34号が拡幅すれば、私たちが始めた県央二市サミットもますます盛んになると思います。また、スポーツコンベンションなどは特に、両市で連携できるものと

思います。

私は国土交通省などへ期成会の皆さまと要望へ行きますが、その時にわかったことは、地元の盛り上がり、が事業化に繋がるということです。ぜひ、地元から盛り上がりつつ、はありませぬか。



地元の盛り上がり、が事業化に繋がる

松本 崇 大村市長

【菊森氏】

国道34号は県央だけの問題ではなく、県の交通網の要衝になります。今日のシンポジウムで感じたことは、1日も早く拡幅することが重要になってくるということです。

大会宣言

官民一体となつて

1日も早い実現を

地元からの熱いメッセージとともに、大村・諫早両市が、官民一体となつて1日も早い4車線化の実現を目指すことを宣言しました。



大串 靖弘氏
鈴田地区開発振興会
会長

要望活動

11/15

国道34号大村・諫早間の4車線化などを要望

官民で組織する「国道34号等大村市内幹線道路整備促進期成会（会長 松本市長）」が、地元選出国議員や国土交通省に対して要望活動を行いました。

松本市長や副会長の田中市議会議長をはじめ、谷川衆議院議員同行のもと、野上国土交通副大臣へ直接面会し、市の最重要課題となっている「国道34号大村・諫早間の4車線早期事業化」ほか、幹線道路3路線の早期整備について地元の切実な声を届けました。

今後も県や関係自治体と連携を強化し、幹線道路網の早期整備を目指し強く要望していきます。

